

2019年10月5日

中国における大学生の就職事情

国際文化学部国際文化学科3年

1. はじめに

今年の夏休みに中国から日本に一時帰国した際、様々な企業のインターンシップや企業説明会に参加し、来年度から本格的に始まる就職活動に向けての準備を進めた。自分自身が就職活動に向けて準備していく中で、中国の大学生はインターンシップには参加するのだろうか、中国では毎年のように就職難が問題になっていると側聞したことがあるが、なぜ就職難が起こるのかなど、大学生の就職の現状はどうなっているのか関心を持った。そこで今回のレポートでは、中国における大学生の就職事情について調査し述べていく。

2. インターンシップへの参加

学生が就職前に企業などで就業体験を行い、業界や職種研究、入社前のイメージをつけやすくし、就職活動に向けて準備するためのインターンシップには日本では多くの大学生が参加しているが、中国ではどうであろうか。

調べてみると、中国では、大学時代にインターンシップに参加する人の割合は年々増えつつあり、少し古いデータにはなってしまうが2009年卒の大学生のうち、約8割の大学生がインターンシップに参加していたことが分かった¹。

多くの学生がインターンシップに参加する理由としては、近年の大学卒業生数増加に伴い、大学生の就職活動が厳しくなっていることが考えられる。中国の大学の卒業生は2001年114万人だったのに対し、2018年には820万人もの学生が大学を卒業している²。また多くの企業が実務につながるインターンシップを積極的に実施し、優れたパフォーマンスを発揮した学生には内定を出すなど、ポテンシャルの高さをインターンシップによって見極めているため³、中国においてインターンシップは就職活動前の重要な役割を果たしており、今後もインターンシップに参加する中国人の大学生は増え続けるのではないかと考え

¹ 中国における大学生のインターンシップ事情

https://www.recruit-ms.co.jp/research/study_report/0000000291/ (2019/09/14)

² 中国で新卒の就職難が問題に 18年卒業生820万人、3割が「期待通りにはならない」
<https://zuuonline.com/archives/185682> (2019/09/14)

³ 中国が若く優秀な人材をインターンシップで確保している理由とは
<https://global-hr-online.com/adopt/detail/id=235> (2019/09/14)

られる。

3. 大学生の就職意識

次に中国の大学生は就職するにあたってどのようなことを重視しているのだろうか。また日本の大学生と比較してどのような違いがあるのだろうか。

2016年に読売新聞社と中国の瞭望東方週刊が日中の大学生を対象に行った共同意識調査によると、日中両国とも「自分の才能や能力を発揮する」（日本52%、中国47%）ことを最も重視していることが明らかになった。しかし、就職するにあたって2つ目に重視することでは日本では「安定性」（32%）、中国では「高い収入」（27%）と異なっており、中国の大学生は日本の大学生と比較してお金に対する関心が高いことが分かる⁴。

実際に中国において就職先として最も人気がある業種は、IT業（ネット・通信・電子などを含む）で、次に金融機関（銀行・アセットマネジメント（資産の管理・運用代行）・証券・保険など）、政府機関（非営利機関を含む）と続いており、高収入を得られる業種に人気が集まっている⁵。中国人の友人や先生から側聞したところ、中国人の大学生が高収入を求める理由としては、中国では男女交際をする際に男性は高収入であることが求められることや、将来子供が生まれた際に教育にお金をかけるためなどが挙げられるそう。このことについて今後さらに詳しく調査していきたい。

4. 中国での就職難について

中国の学校では6月が卒業シーズンとなるため、9月頃から就職活動が本格化し、秋が就職の季節となっている。しかし中国では、2003年から就職難が始まり、2013年は「史上最大の就職難」と言われ、2016年にはさらにそれを上回る「史上最大中の最大の就職難」を迎えている⁶。終わらない就職難の原因は一体何なのだろうか。就職難の原因は様々であるが、今回は二つの原因について述べる。

一つ目の原因として、大学卒業者数の増加が挙げられる。先ほども少し述べたが、中国の大学の卒業生は2001年114万人だったのに対し、2018年には約8倍の820万人もの学

⁴ 日本と中国の大学生 就職意識調査

<http://chisapo-academy-blog.jp/2016/03/29/%e6%97%a5%e6%9c%ac%e3%81%a8%e4%b8%ad%e5%9b%bd%e3%81%ae%e5%a4%a7%e5%ad%a6%e7%94%9f%e3%80%80%e5%b0%b1%e8%81%b7%e6%84%8f%e8%ad%98%e8%aa%bf%e6%9f%bb/> (2019/10/01)

⁵ 「90後」世代の就業意識

https://www.jil.go.jp/foreign/jihou/2017/03/china_01.html (2019/10/01)

⁶ 中国を数字で見る（2）中国学生の就職事情～新卒の初任給と人気業界ピックアップ

<https://cte.trendexpress.jp/blog/20171115-data.html> (2019/09/14)

生が大学を卒業している。大学卒業生数が増加している背景には、中国が1999年から高等教育システムの改革を行い、より多くの学生に高等教育を受けさせるために入学定員を年々増員させた経緯がある⁷。しかし大学卒業生が増加した結果、拡大された定員数に相当する企業側のポジションがなく、大学生が超買い手市場となり就職難が続いている。

二つ目の原因として、就職差別があると考えられる。その中でも特に「戸籍」による差別が挙げられる。中国では多くの企業が戸籍を重視しており、中国政法大学憲政研究所によると、雇用主の掲げる雇用条件のうち企業・団体の59.14%が「戸籍重視」の採用を行っていることが分かった⁸。また就職説明会などにおいても、限られた出身地の大学生しか参加することしかできないなどといった差別や、「現地戸籍保有者を優先」、「現地もしくは近隣エリアの戸籍を保有する者」だけを対象として採用募集を行う企業も多い⁹。

本人の努力ではどうにもならない生まれ持った戸籍によって就職が決まるとするのは、厳しい現実であり、不条理でもあると私は考える。

5. 「蟻族」の存在について

中国における大学生の就職難について調べていくうちに、「蟻族」という言葉を頻繁に目にした。調べてみると、蟻族とは高学歴の大学卒業生であるが、安定的な職に就くことができず、低賃金の職に就き、家賃節約のために狭い部屋で多数のルームメイトと暮らす若者を指すことが分かった。彼らは農民、出稼ぎ農民、失業者に続く第4の社会的弱者として位置づけられている¹⁰

この蟻族は、北京地域だけでも10万人以上いると予想されている。北京以外でも上海、武漢、広州、西安、重慶、太原、鄭州、南京などの大都市で蟻族は増加しており、全国で100万人を超える蟻族が存在すると言われている¹¹。

より良い職を求め大学進学したにも関わらず就職難により増加していく社会的弱者の存在は、中国の社会的課題といえるだろう。蟻族に未来はあるのか、社会はどう蟻族と向き

⁷ 中国における大学生の就職現状

<https://www.fujitsu.com/jp/group/fri/report/china-research/topics/2012/no-162.html>
(2019/09/14)

⁸ 中国の大学生「就職差別」の実態調査…活動に「戸籍偏重」の壁

https://www.excite.co.jp/news/article/Searchina_20100727039/ (2019/09/22)

⁹ 新卒生が直面する各種「就職差別」 戸籍や性別が就職の壁に (2)

<http://j.people.com.cn/n3/2017/0606/c94475-9224709-2.html> (2019/09/30)

¹⁰ 「蟻族」の生活状況が悪化

<http://j.people.com.cn/94475/7269019.html> (2019/09/30)

¹¹ 「蟻族」の若者、中国全国で百万人超

<http://j.people.com.cn/94475/7372563.html> (2019/09/30)

合っていくのか、今後詳しく調べていきたいと思う。

6. おわりに

今回のレポートでは、中国における大学生の就活事情について調査した。その結果、日本と同様に中国の多くの大学生も就職前にインターンに参加し、また多くの企業がインターンシップを積極的に実施し、優れたパフォーマンスを発揮した学生には内定を出すなどというようにインターンシップを重視していることが分かった。

就職するにあたって重視することにおいては、日中同様に「自分の才能や能力を発揮する」ことを最も重視しているが、中国は日本に比べて収入について重視している。

中国の就職難については、大学卒業者数の増加や戸籍差別によって依然として厳しい現状が続いており、その結果「蟻族」という存在を生み出していることが分かった。

現在中国の大学生は就職活動真っただ中だ。就職活動に関するニュースや中国人の友人の話聞き、今年の就職状況はどうなっているのか、就職難は引き続き続いていくのかに目を向け、引き続き調査を続けていきたい。